

# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL65 平成24年11月



## 真誠会セントラルレジデンスで 新しいスタイルの生活をエンジョイしましょう

真誠会セントラルレジデンスの建設計画がいよいよ具体的に前進することになりました。現在の予定としては本年11月に着工し、平成25年9月頃に開所予定です。

セントラルレジデンスは、ご高齢の皆様が安心して暮らせるサービス付き高齢者専用住宅で、新しいスタイルの生活の場所です。場所は、米子と境港を結ぶR431沿いの「けやき通り橋」を曲がってすぐのところであり、付近には米子の中心街と言える様々なレストラン、大型店舗、大型衣料品店、コンビニエンスストア、本屋もあるので、けやき通りを気持ちよく散歩しながらショッピングを楽しむことが出来ます。

セントラルレジデンスの中にはレストランもあり、ご友人、ご家族と団欒できます。居住生活はアパート、マンションと同様に自由なプライベートが保障されています。

体が不自由な方には、介護保険サービスを受けることができます。食事の宅配や、生活上のお困りごとに対しては「生活支援隊」にお電話いただければ、いろいろな支援を受けることができます。治療を必要とする病気がある方で寝たきりの方へは主治医の訪問診療も可能ですし、救急の場合には往診を依頼することも出来ます。

以上を総合すると、今までのアパート、マンションに、高齢者施設、福祉施設、医療のサービスがついたものとお考えいただければよいと思います。

また同じ敷地内には真誠会セントラルローズガーデン（健康クラブ（ライトフィットネスクラブ）、デイサービス、認知症対応型通所介護けやき庵）があります。ここにお住まいになれる方にはご自分の健康状態にあった運動、サービスを選ぶことが出来ます。

また、生活上の問題、介護保険の問題などは、地域包括ケアセンター、ケアプランセンターのスタッフにお気軽に相談ができます。

セントラルレジデンスは、最近流行の格安のサービス付き高齢者住宅ではありませんが、それ相当の価値のある、安心でき満足できる環境とサービスを提供いたします。

自分が苦勞してきた人生の、残りの一番大切な時間にふさわしい場所が必要です。セントラルレジデンスにお住まいになることはご自分の人生と努力に対するご褒美です。

赤い屋根のセントラルレジデンスで、おしゃれで新しい生活を・・・。



社会福祉法人 真誠会  
医療法人 真誠会  
理事長 小田 貢

## 在宅医療連携拠点事業真誠会

# コズミックリンク Cosmic Link

本年、5月に真誠会が厚生労働省の直轄事業、在宅医療連携拠点事業所に指定されてから、鳥取県西部医師会、西部医師会在宅医療推進委員会、鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課、鳥取県西部総合事務所福祉保健局、鳥取県西部地区の医療福祉機関、鳥取大学医学部附属病院などと連携した委員会を立ち上げ、またメーリングリストを立ち上げました。

そして今まで在宅医療連携拠点事業推進真誠会内部委員会、在宅医療連携拠点事業推進会議を開催してきました。

その一方で、在宅医療を具体的に推進するためのツールとして使える鳥取県西部地区の医療福祉施設、機関の対応についてアンケートを実施し、それを基に作成した医療福祉連携ガイドをホームページ：コズミックリンク内に立ち上げました。

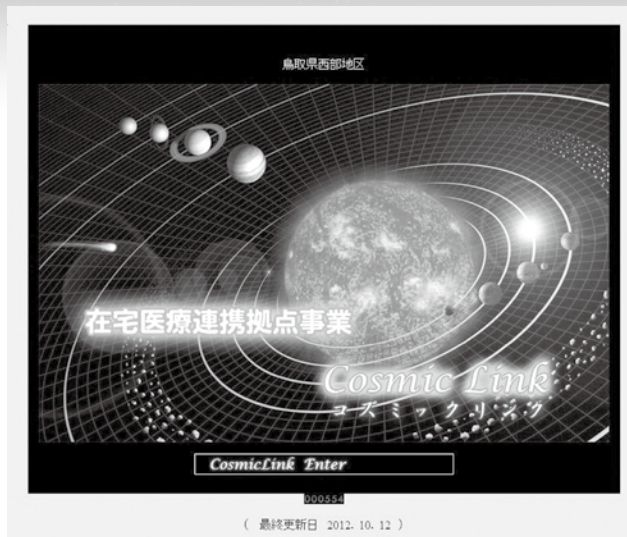
このようなインターネット上にデジタルで医療福祉機関の機能を公開したのは全国でも真誠会が先陣を切ったと言ってもよいほどです。

また全国、中国地区の連携拠点事業所のマップも真誠会が全国に先駆けてインターネット上に公開しました。これを見れば鳥取県西部地区のどの医療福祉機関がどのようなことに対応できているのかすぐ分かり、また往診中や訪問介護中でも、スマートフォンなどで医療機関の場所や機能が確認できるようになりました。

拠点事業の復興枠として、10月17日には米子市和田町における津波避難訓練、10月28日には大篠津地区で行なわれる米子市防災避難訓練に真誠会の専門スタッフも参加し避難訓練の実情を把握するとともに、私たち医療福祉施設スタッフの役割を考察することができました。

今後は引き続き市民を対象として、在宅医療、在宅看取りの啓発活動を行ないながら、自宅で人生の一番大切な時間を過ごしたい患者さんの希望が叶えられるようにしていきたいと思えます。

この事業の予定としては平成25年1月下旬に広島で中国5県の発表会があり、3月には一年間の活動の最終報告を厚生労働省に提出することになっています。



コズミックリンク ホームページ  
<http://renkeikyoten.main.jp/>



和田町の津波避難訓練の様子  
報告を受け指示を出す本部



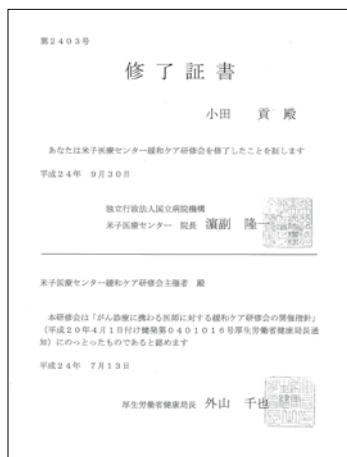
健康状態の確認



施設への搬送

## 小田院長の 研修日記

真誠会セントラルクリニック  
院長 小田 貢



## 緩和ケア研修に参加して

開業以来、まだ開業医では、がんの緩和ケアは稀な頃から、がん患者さんを診てきました。その点では、がん患者の緩和ケアに関しては 24 年間の十分な経験があります。

近年、厚生労働省は、「すべてのがん診療に携わる医師が、緩和ケアの基本的な知識を習得していることが非常に重要」とし、厚生労働省が主催する緩和ケアの研修を受けることを強く推奨するようになりました。

そのため一念発起し、平成 24 年 9 月 29 日、30 日の両日、医師に対する緩和ケア研修が米子医療センターで行われ参加して来ました。

この研修会は、厚生労働省から出された指針を基にした、医師に対する緩和ケア教育プログラムでしたので、久しぶりの二日間の缶詰で疲労困憊気味でしたが、最終日に研修修了証書をもらい一安心しました。

この研修を修了し、がん性疼痛緩和指導管理料と在宅悪性腫瘍患者指導管理料が算定できるようになりました。緩和ケアを必要とする患者さんの計画的な治療管理と療養上必要な指導を継続的に行い、患者さんやご家族の心のケアを医師や看護師などが協力してサポートし、より一層、地域医療連携として緩和ケアの充実を図りたいと思います。

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面する患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見して、的確な治療や処置を行うことにより、苦しみを予防し、和らげることです。

## 全国在宅医療連携拠点事業都道府県リーダー研修に参加

この度、真誠会が全国在宅医療連携拠点事業として厚生労働省から業務委託を受けました。そのために今後、真誠会は鳥取県西部地区だけではなく、鳥取県全体の在宅医療のモデル的な活動を行い、そのための啓発活動を行う義務があります。

10 月 13 日、14 日の 2 日間、東京で多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業として、都道府県リーダー研修が開催されました。

この研修は、国が各都道府県で中心的な役割を担う人（都道府県の行政担当者、地域の在宅医療関係者）に対して、リーダー講習を行うための研修であり、鳥取県のリーダーとして、啓発活動の指導的役割を担うべく研修を受けてきました。研修ではこれからの日本の医療における在宅医療の大切さの基本から、今後他の医療関係者に対しての指導方法などを学んできました。

米子市を中心とした鳥取県西部地区において、医師、看護師、訪問看護ステーション、ケアマネージャー、地域包括支援センターなど多職種協働の在宅医療推進のために、私（院長）ならびに真誠会専門スタッフが丸となって、活動を計画したいと思います。

## 認知症サポート医研修会

厚生労働省では、高齢者が慢性疾患などの治療のために受診する診療所等の主治医（かかりつけ医）に対し、適切な認知症診断の知識・技術、家族からの話や悩みを聞く姿勢を習得するための研修を実施しています。

私（院長）は、既に「認知症かかりつけ医」の資格をもっていて認知症患者さんを診療していますが、さらなる研鑽と、地域における認知症患者さんのネットワークを構築するために、今年の 12 月に大阪で「認知症サポート医」の研修を受けてきます。

認知症サポート医の研修会は、かかりつけ医への研修・助言をはじめ、地域の認知症に係る地域医療体制の中核的な役割を担う医師としての養成研修です。

### 【認知症サポート医の役割】

- (1) 都道府県・指定都市医師会を単位とした、かかりつけ医を対象とした認知症対応力の向上を図るための研修の企画立案
- (2) かかりつけ医の認知症診断等に関する相談役・アドバイザーとなるほか、他の認知症サポート医（推進医師）との連携体制の構築
- (3) 各地域医師会と地域包括支援センターとの連携づくりへの協力  
→ 地域における「連携」の推進役を期待されている

# 市民フォーラム

## 第3回 認知症サミット鳥取

認知症とともに地域で暮らすために

市民フォーラム「第3回認知症サミット鳥取」(同実行委員会主催)が9月16日(日)、鳥取市尚徳町のとりぎん文化会館で開かれました。地域全体で認知症高齢者とその家族を支援するにはどうしたらよいか、映画上映や基調講演、各団体の活動報告などを通して考えを深める会となりました。

### 映画



フォーラムの始めに、映画『わたし』の人生(みち)ー我が命のタンゴーが上映されました。精神科医として老年医療に取り組んできた和田秀樹さんが、実話を基に原案をつくり、監督を務めた作品です。認知症を発症した父と娘の触れ合いの描写が感動を与えます。

和田さんはパネリストとしても登場し、「あまり抱え込み過ぎない、場合によっては施設に入ることも悪くない。こんなふうに、映画を見て少しでも気持ちが軽くなってもらえたらうれしい」と話されました。

『わたし』の人生 ~我が命のタンゴ~  
8/11(土)より、シネスイッチ銀座他にて全国公開 配給:ファントム・フィルム  
© 2012「わたし」の人生 製作委員会

### 基調講演



【主催者代表】  
鳥取大学医学部保健学科  
生体制御学講座  
環境保健学分野 教授  
浦上 克哉氏

## 「認知症予防のできるまちづくりを目指して」

最近の研究では、認知症の半数を占めるアルツハイマー型は予防できることが分かってきました。予防には「進行防止」、「早期発見・治療」、「発症予防」の3段階があります。この3つを包括して取り組めるまちづくりが重要です。

琴浦町では、9年前から認知症予防に取り組んでいます。「もの忘れ相談プログラム」というタッチパネル式の機械を使って早期発見をしています。認知症の疑いがあると診断された場合、医師が専門医療機関へ紹介状を書きます。予備軍と診断された方には予防教室を勧めています。3カ月の教室で認知機能の改善がみられます。

琴浦町で始まった取り組みは県内に広がりつつあります。県西部を中心に広がり、倉吉市や鳥取市、智頭町でも始まりました。県東部にも浸透するよう期待しています。

### シンポジウムI



【座長】  
鳥取短期大学 学長  
山田 修平氏

## 「認知症をよりよく理解し、行動しよう」

### 「情」に寄り添い接して

人間には「情」と「知」があります。認知症は「知」に「症」があるので、いかに「情」に寄り添うのが大切です。認知症で物事を覚えられない人には「大切なことはいっぱい覚えているよ。もう覚えなくてもいいよ」という気持ちで接したいと思います。

100歳を超えた方から、長寿の秘訣(ひけつ)は3つの「かく」だと聞きました。ものを書く、汗をかく、恥をかく。人と会って会話をすると恥をかくし、刺激を受けます。

地域で一人ぼつんとしている人がいたら、こういう集いに誘ってください。恥をかくからと嫌がられるかもしれませんが、これは認知症の予防になると思います。

「認知症を予防するとともに認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」



鳥取西地域  
キャラバンメイト連絡会  
会長  
山田 節子氏

「倉吉市における認知症予防の取り組み」



倉吉市認知症  
地域支援推進員  
(県介護支援専門員  
協議会会長)  
石賀 純子氏

「認知症になっても本人・家族が安心して暮らせるまちづくりを目指して」



智頭町  
地域包括  
支援センター  
保健師  
小谷 いず美氏

シンポ  
ジウムⅡ

## 「認知症とともに地域（まち）で暮らすために」

## 家族の愛情や絆育てる

【実行委員長】 特定非営利活動法人 がいなネット 理事長 小田 貢氏



認知症は治らない病気ですので、薬で進行を遅らせても、数年後にはさまざまな問題が起こったり家族は精神的なショックを受けたりします。このとき、家族を理解する愛情があれば乗り越えることができます。

家族に限らず、愛情を地域全体で深めるためには教育が大切です。人を思いやる心を教えれば、子どもの情操教育にも効果があると思います。

愛がこもった介護ができるかどうか、家族や夫婦の絆が試されます。高齢者が高齢者を介護する「老老介護」の時代です。夫婦 2 人とも高齢になったとき、お互いにパートナーを介護できるかどうか、普段からよく話し合っておく必要があります。

## 高齢者ケアの三つの理念

【代表世話人】 社会医療法人明和会 医療福祉センター渡辺病院 院長 渡辺 憲氏



小田先生は、認知症ケアを「愛」という言葉でまとめられました。日野課長が使われた「支え愛」にも通じるものです。この愛は、認知症高齢者と家族を地域で支えるキーワードになるかもしれません。

以前、高齢者福祉の視察でデンマークへ行きました。医師、看護師、訪問介護のスタッフたちと会いましたが、三つの理念があると共通して述べていました。「人格・自己決定の尊重」、住み慣れた環境や人とのつながりを大切にする「人生の継続性」、できることは自分でしてもらう「残存能力の活用」の 3 点です。現代のわが国においても医療・介護・福祉の柱となるべき重要な概念であり、紹介させて頂きました。

## 行政が家族の心をケア

評論家・映画監督・国際医療福祉大学大学院（臨床心理学専攻）教授 和田 秀樹氏



認知症の人には、徘徊や妄想的な言動が多い、衝動が抑制できないといった症状をもつ人もいます。これは、地域や行政の助けがなければ家族が崩壊してしまいます。

小田先生がおっしゃった「愛」は、患者が感じるものだと思います。患者は「分かってもらえた」「うれしい」「楽しい」と感じると機嫌が良くなり、病気の進行も遅くなります。

家族の愛は大事ですが、在宅介護が重荷になると、介護する家族がうつ病になったり高齢者を虐待したりします。これからは家族のメンタルケアが重要です。気持ちを楽に持って、お互いが助け合うこと。行政や医療機関、ケアマネジャーに上手に頼ることが大切です。

## ご近所さんは見守って

鳥取県福祉保健部 長寿社会課 課長 日野 力氏



これからは認知症高齢者の一人暮らしが増えていきます。認知症が悪化すると、食事や洗濯、買い物などが一人でできなくなります。その場合、医療サービス、介護保険サービス、成年後見制度などを利用して生活をサポートできます。

しかし、普段何気なくしている近所づきあいや見守りは行政ではできません。主体は地域や家族です。ご飯を食べているか、エアコンが動いているかなど、1日数分でいいので家に立ち寄ってみる。将来の自分を想像して行動することが必要です。

県は「支え愛」を重点テーマにしています。皆さんも地域の支え手として協力していただきたいと思います。

## 介護者交流で元気回復

公益社団法人認知症の人と家族の会 鳥取県支部 代表 吉野 立氏



認知症の人と家族の生活を支えるために、介護家族の集いを開いています。介護者同士が集まって交流し、元気や介護に向かう力を取り戻す場です。介護心中や介護殺人が起こる現状では、人とつながるだけでも家族が少し楽になります。

年間 2 千件以上の電話相談があります。状況に合った解決方法を考え、支援センターの紹介や、必要があれば家庭訪問を行います。一度相談すると 24 時間体制で対応します。全国でも鳥取県だけの取り組みです。

若年性認知症の勉強会、男性介護者の支援などにも取り組んでいます。市民が協力して取り組むことで、一つの社会資源ができればよいと思います。

# 辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗

## パリでスリに遭う!

今年も職員を連れてパリまで行って来ました。ボクにとっては3回目のパリです。今回は7月のバカンスシーズンに行ったものだからパリは世界中からの観光客であふれていました。特に中国からは団体さんが大挙押し掛けていて、ヴェルサイユ宮殿やルーブル美術館は朝から中国人で一杯だったのには驚きました。

3回目とあって大分パリに慣れてきましたので、小さな雑貨屋、パン屋、スイーツの店、B級グルメなどがかなり細かくリサーチして出か掛けました。行きは初めて羽田から夜中の便に乗り、パリには朝に着きました。その日は普通に診療して夜の最終便で羽田まで行き、次の日の朝にはもうパリにいてパリも近くになったもんです。

パリに慣れてきて油断した訳ではないですが、凱旋門付近で職員がスリに遭ってしまいました。人ごみに紛れて知らぬ間にバッグから財布をかすめ取られたようです。幸い取られたのはお金だけでしたからよかったです。とられた本人としてはショックだったようで、一応警察に届けることにしました。ボクも一緒に付いて初めてパリの警察に行ってみました。それがパリの警察ときたら全然やる気がない。「で、どこでスられたの?」「いくら?」こちらが「あの一、400ユーロ」と答えたら、「なんでそんな大金なんか持ち歩いてたのよ、まったく。」といった表情でした。もっとも日本人のスリの被害は珍しくないようで、被害届には英語と日本語が書いてありました。その後もボくらが居るのに私語ばかりして全然仕事せず、やっと終わったのが1時間後でした。ちょっと疲れたけどパリの警察に行くというまたとない経験でした。皆さんは、ボくらのようなドジは踏まないでしようが、花の都パリは凱旋門やルーブル美術館にはスリで一杯です。

ドジな話をもう一つ。パリの一角にマレ地区といって雑貨屋がたくさんある所があります。またそこにはユダヤ人街もあって、ユダヤのファーストフードのファラフェルというのが人気でどのガイドブックにも紹介してあります。これも是非食べようと出かけ、そこで一番人気の店に並びました。そこで待ってる間に、ユダヤの兄ちゃんが注文を取りに来て、お金をうっかり別の人に渡してしまいあやうく二重払いになる所でした。向こうとしては、ほんのいたずらのつもりだったようですが、日本人はほんとお人好しです。ボクなんかその典型です。でもよく考えたら、相手のユダヤ人はもう何千年も流浪の民として迫害を受け、世界中の至る所で逞しく生きてきた民族で、かたや日本人はそれこそ海に守られ大した苦労もなくぬくぬくと生きて来れた。この違いかなと思ひながら、ファラフェルをパクつきました。

今回はファラフェルを始めB級グルメを堪能しました。写真上はマレ地区にあるタルトの店のオーナーの女性とのツーショットです。小さな店でボクたちが行った時は他に誰もおらず、なんで私の店に日本人が突然来たの?という顔をしていました。タルトはボリュームがあって旨かったです。写真下はカルチエラタンという庶民的な街の一角にあるなんてことないクレープ屋です。なぜかガイドブックに載っていたので、ワザワザ食べにいきました。陽気なおじさんで、日本人もよく来るようでカタコトの日本語を話しながら手際よくクレープを作ってくれました。ボクが頼んだのはチーズがたっぷり、ボリューム満点で腹一杯になりました。

今回も色々あった珍道中でしたが、エッフェル塔には階段を歩いて登れたし、セーヌ川を走るバトビュスと言う水上バスにも乗ったし、また行きたいなあー。



マレ地区のタルト店のオーナー・カトリーヌさんとのツーショット



カルチエラタンにある「オ・フティ・クレーク」というクレープ屋わざわざ中まで入れてくれたのツーショット

# いえはら歯科



## 2012 夏

いえはら歯科  
院長 家原 猛

今年の夏は私にとって、ここ 5 年余を費やし、たどり着いた結果を示すことのできた記念すべき夏となった。きっかけは 2006 年 7 月海の日前日、大学時代の福岡の親しい友人から電話があった。米子にきている。明日、皆生のトライアスロンに出ることにしていると。

約 30 年前、彼は剣道部、私はサッカー部、学内の駅伝大会などで健脚を誇っていたのは私。20 歳の時、体育の授業の計測で 1500m を 4 分 50 秒で走ったのを覚えている。だから、この電話にはちょっとびっくりであった。それからである、一念発起。

まずはバイクから。28 歳の時 1 度ロードバイクを米子 - 境港間を通うのに購入したことがあったが、この度は入れ込んでハイグレードのロードバイクを購入。まさに、再び火が着いたのです。2007 年 10 月宍道湖中海ワンデイラン 160km を皮切りに、100km 超のサイクリングに多数挑戦してきた。2008 年 5 月三瓶山ヒルクライムを含む浜田 - 太田間往復 300km (2 日間)、2009 年 10 月しまなみ海道尾道 - 今治間往復 150km、2011 年 10 月淡路島一周 160km などなど。

皆生トライアスロン Bike の試走会 5 月のバイクカーニバル 145km には毎年参加。6 月鳥取サイクリング協会のサイクルマラソンロング 120km にも毎年参加。6 月ツールド大山にもここ 3 年間は連続参加している。

そう、2008 年 9 月からスイムも始めた。週 3 回、夜のマスターズコースに通い始めた。初めのうちは、水の中を進む姿勢が良くないのと、筋力不足、水をつかむ技術の無さ、呼吸法の未熟さなどなど、今でもへたくそだが、肩の筋肉痛、心肺への負担に悲鳴を上げていた。「苦、苦しい！」だが、少しずつ慣れ、体もいくらかできてきた。

ランも本格的には 2010 年のお正月から始めた。その年の春分の日、鳥取マラソンにも思い切ってチャレンジした。25 年ぶりの挑戦は思ったより走れたが、惜しくも 4 時間が切れず、翌 2011 年どうにか 4 時間切りを果たした。また 2 月の出雲市国びきマラソン (ハーフ)、11 月安来市中海マラソン (ハーフ) などにも参加した。

トライアスロン競技では、2009 年の第 1 回ホワイトトライアスロン in 湯梨浜にも参戦、これまで 4 年連続参加した。この大会はスイム 1.5km バイク 40km ラン 10km のオリンピックディスタンスの大会である。プチ自慢は毎回自己ベストを更新してきたこと。

昨年、いよいよ皆生の鉄人目指して、第 31 回全日本トライアスロン皆生大会に初挑戦。スイム、バイクと痙攣する脚をだましだまし、最後のランにつないだ。しかし 19:00、20km 地点で無念のリタイア。最後の最後まで、走り抜く覚悟ができていなかった。そして翌日未明、なでして JAPAN が女子サッカーワールドカップドイツ大会で、絶対王者アメリカを倒して優勝を飾った。(テレビの前で、本当に自分が情けなかったのです。)

そして今年、最後まで絶対諦めない、強い覚悟で臨んだリベンジマッチ。前日から海が荒れスイムは中止、1st ラン 8.3km に変更。ほどほどのペースで乗り切った。続くバイク。前半は結構な向い風の中、気持ちほど頑張った。水分とエネルギーの補給を計画的に摂りながら、脚の疲労度に配慮しつつ落ち着いて走った。

復路日野川の土手が期待どおり順風で助かりました。気持ち良く走ることができた。予定より少し早くランをスタートできた。しかし前年と同じように脚の疲労度は半端じゃない。とにかく前へ、ゆっくりでも前へ、と思って歩を進めた。潰れないように。苦しい時間が続いた。日が傾いて 30km 地点で残り 2 時間、この辺からやっと順調に走れ始めた。ボランティアの支援、沿道の応援、仲間の声援、同じ競技者との共助。だんだん元気が出てきた。そして、そして、めでたく完走。実は、32 回大会は 3 年ぶりにエントリーした福岡の友人と共に完走を果たせた最高の結末となった。BRAVO!! そして、来年も絶対、完走です!!



完走を果たした、  
第 32 回全日本トライアスロン皆生大会

# 和田町にグループホーム(2ユニット)建設決定!

真誠会ではかねてより、和田町の「小規模多機能センター真誠会ふる里」の隣接地にグループホームの建設を米子市に申請していました。

この度、定員 18 名の認知症グループホーム 2 ユニットの建設することが決定しました。(9 事業者の中から 4 事業者が選ばれました) 来年 7 月から事業開始する予定です。

グループホームは少人数の認知症の高齢者が、食事の支度や掃除、洗濯などをスタッフと共同で行い、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で共同生活を送ることにより、認知症状の進行を穏やかにし、家庭介護の負担を軽減するための施設です。「小規模多機能センター真誠会ふる里」、「ふる里ギャラリー」と一体となって、米子で一番の高齢化率である和田町で、これから更に高齢化する米子市においても、モデル地区になるような高齢者施設中心の新しい町づくりを試みたいと思います。

また、認知症対策でも和田町は本年米子市では初めて認知症徘徊模擬訓練を行なった町です。今後はさらに認知症に関する理解を深めることにより、認知症になっても地元で暮らせる町として、高齢者にとっては米子市で一番幸せに暮らせる町になるように、町民の皆さんと一緒にチャレンジしたいと思います。

## 第6回地域交流ふる里まつりを盛大に開催!! ～あふれる地域交流の輪～

小規模多機能センター真誠会 ふる里 金田直己

10月20日(土)午後1時30分から、小規模多機能センター真誠会ふる里広場において、利用者様及び各地域からおよそ500名が来場され、絶好のお祭り日和の中、盛大に開催されました。

オープニングの和田荒神こども太鼓の「お祭り太鼓」で始まった地域交流ステージは、崎津子ども会の銭太鼓・傘踊り、フラダンス・手話ダンス・安来節・ハーモニカー演奏や唄・踊り・獅子舞等の多彩なステージ披露に満員の会場からも拍手喝采の渦。

そして、浜名物ののこめし・たこ焼き・白ネギ串・焼きそば大抽選会等のバザー8店も例年以上の大盛況で早い時間にすべて完売!となりました。

準備から当日会場及び片付けまで、地域の皆様方にご協力いただき、盛大なお祭りを開催することが出来ました。来年は、地域の皆様方とともに、さらにビッグな祭りとの交流の輪が広がるような祭企画にしたいと思います。地域の皆さま、ご協力ありがとうございました。(感謝)



お祭りは晴天に恵まれ、大盛況!!



## 真誠会セントラルローズガーデン 祝!1周年記念式典



平成 24 年 9 月 1 日で真誠会セントラルローズガーデンが地域の皆様に支えられ、1周年を迎えることができました。記念式典では、くす玉によるオープニングセレモニー、後藤社中の皆様による「琴と尺八の演奏」、ご利用者様と職員によるコラボレーションセッションと式典を盛り上げて頂きました。これからも私達は地域の皆様と共に歩み、そして地域に貢献していきたいと思っています。



後藤社中さんによる琴と尺八のすてきな音色の演奏でした



職員と利用者さんで「もみじ」「バラが咲いた」などを演奏しました







## 真誠会設立24周年記念式典

医療法人・社会福祉法人 真誠会理事長 小田 貢

平成 24 年 9 月 9 日で、真誠会設立 24 周年記念を迎えました。当初は小さいグループでしたが、次第に大きくなり、鳥取ではベスト 5 に入っていると思います。

この度、和田町にグループホーム 2 ユニットが獲得できました。和田町に、大きな複合体施設ができます。

また、セントラルローズガーデンには高専賃が建設になります。今年の 11 月頃には着工し、来年の秋頃には完成していると思います。

こういった運営ができるのも一人の力で出来るものではありません。今まで出会った多くの方の知恵、協力、支援のお陰で実現できるのです。

在宅医療連携拠点事業もスタッフの努力により、他県で行なわれている同じ拠点事業の内容と比較し、はるかに勝れていると思います。

真誠会は急速に発展しています。今年から来年にかけて新しい事業が始められると共に新しいポジションができます。それにより、新しいリーダーが必要になってきます。皆さんのやる気を見せて努力をしてチャンスを活かしチャンスをつかんでください。

米子が医療福祉の町としてさらに発展していくことを望んでいます。真誠会は、設立して 24 年間経ちますが、すごいスピードでこれたことは、皆さんの『努力』という土台があることは事実です。

## 鳥取大学医学部医学科4年次生の「地域医療体験実習」受け入れ始まる

医療法人・社会福祉法人真誠会 看護・介護統括部長 三ツ木 育子

今年度から医学部 4 年次生の「地域医療体験実習」を受ける事となりました。

実習目標は「地域医療の現場で、患者がどのようにケアされているか、医療者はどのような役割を果たしているかを見聞する」であり、到達目標の一つに「地域包括ケアという保健、医療、福祉の連携という角度から、各医療機関が担っている役割を説明できる」としています。

真誠会は地域医療、福祉、介護の多種事業を米子市で広く展開している事から、以前より医学科生が実習に来て頂く事を期待していました。

また、今年度、厚生労働省から在宅医療連携拠点事業所に採択され国の政策として医療と介護の連携を推進する活動を展開しています。その活動のタスクの一つ「在宅医療に従事する人材の育成」の命題があり、「地域医療体験実習」受け入れは本事業の一つと位置付け、下記のプログラムで理事長を始め、事業のメンバーが一丸となって関わっています。

「地域医療体験実習」で学ばれた医学生の方々が地域医療により関心を持たれ、近い将来、同じフィールドで共に働ける事を心より期待しています。

### 地域医療体験実習のカリキュラム

目 標	行動目標	担 当
国の動向を知り、地域医療について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後の動向</li> <li>●医療保険、介護保険</li> <li>●人的資源、連携センターの役割</li> </ul>	三ツ木看護介護統括部長 前田課長 小山医療福祉連携センター長
在宅医療支援 地域医療の実際を学ぶ 診療の見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●診療所の役割とその特長</li> <li>●外来機能 検診 ●認知症早期発見</li> <li>●高齢者看護の視点 ●セントラルクリニックの役割</li> </ul>	小田理事長 市川副師長 河瀬看護師 (外來)
老健併設の透析療法の実態を知る	●透析患者とケアの実際見学	佐藤 暢医師 加瀬部責任者 足立看護師
21 世紀の地域医療を担う医療人に期待すること	●全人的医療について学ぶ	小田理事長
地域医療の実際を学ぶ	●訪問診療 訪問看護帯同	訪問看護ネットケア 岡田悦子所長
老健について機能と役割を知る 通所系について機能と役割を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●老健施設での医師役割</li> <li>●入所者の特徴について</li> <li>●コミュニケーションの図り方交流</li> </ul>	中下医師 (施設長) 小徳看護師長
ふりかえり	●意見交換で交流し体験学習を振り返る	三ツ木看護介護統括部長 前田課長

# オールジャパンケアコンテストに 参加して

介護老人保健施設 ゆうとぴあ 谷口辰朗、花房幸雄

第 3 回オールジャパンケアコンテストが 10 月 2 日に米子ビッグシップで開催されました。北は北海道、南は九州と全国から合計 108 名の方が参加し、真誠会からも 3 施設の代表として 6 人の職員が参加しました。オールジャパンケアコンテストとは、介護職員がこれまで会得した技術や心構えを披露し、アドバイザーによる評価やディスカッションを通じて、介護技術の一層の向上と地域との繋がりを深めることを目的としたコンテストです。

私はこのコンテストに初めて参加し、アドバイザーの方に評価していただいたり、他選手のケアを見ることで、自分の技術の実力を知ることができました。そして、新たな知識としてケアの方法、捉え方など学ぶことが出来ました。特に介護者側からではなく、利用者様側からの目線でケアに当たるということの重要性を改めて認識させられました。

今回コンテストに参加させていただいたことで、多くの学びと新たな発見ができました。今後はコンテストでの経験を活かし、ケアの質をさらに向上させ、利用者様により快適に過ごしていただけるよう、職員全員で取り組みたいと思います。



コンテストでトイレの介助風景です

## ホスピタウン敬老会

9 月 12 日 (水) に米子ホスピタウン (河崎) で、9 月 15 日 (土) に弓浜ホスピタウン (大崎) で敬老会が開催されました。

現在、真誠会に入所されている 100 歳以上の方は、介護老人保健施設ゆうとぴあ (河崎) に 2 名、介護老人福祉施設ピースポート (大崎) に 2 名と、100 歳を超えてもなお元気に過ごされています。

9 月 12 日の弓浜ホスピタウンの敬老会祝賀会では、米寿を迎えられた 6 名の方に記念品を贈呈し、真誠会特製の松花堂弁当でお祝いをしました。

また、アジサイ会和田教室の皆様による大正琴やピアノフラ教室の皆様によるフラダンスの披露で祝賀会を盛り上げていただきました。

弓浜ゆうとぴあの敬老会  
豪華！松花堂弁当でお祝いです



ピースポート、ケアハウス  
合同敬老祝賀会



ご家族 生田 玲子様  
ゆうとぴあ入所者 生田 愛子様 (現在 102 歳)

米寿の方に  
記念品の贈呈です

お陰様で何事もなく元気で 100 歳を超すまで暮らすことができている。家では看れないところを、ゆうとぴあの皆様にお世話になり、「笑顔を見て癒される」とスタッフの皆様のお言葉に嬉しく思います。おばあちゃんは助産師でした。現役時代は 100 人以上のベビーを取り上げてきたので、今でも元気で長生きできているのでしょうか。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

## フードドライブ活動に参加

8月から真誠会ではフードドライブ活動を行いました。9月12日に、全事業所の職員と施設利用の皆様から寄せられた約400点の食料品を、児童擁護施設への支援活動を行っている「ヤッホー!キッズ」代表の足本安恵様に、小田理事長よりお渡ししました。

フードドライブとは、家庭で余った食料品を持ちより、食料の確保が困難な団体や個人を支援する活動です。

足本様から、米子市内の自立援助ホーム「ピアホーム」へお届けしたいというご希望がありましたので、直接お届けしました。

真誠会では、定期的にフードドライブ活動を実施し、支援を続けてまいります。



ヤッホー!キッズ代表の足本さんと小田理事長



ご協力ありがとうございました。

真誠会で集められた食料品はダンボール7箱分にもなりました

## 真誠会が日本赤十字社へ義援金報告

医療法人・社会福祉法人真誠会は6月28日、東日本大震災の義援金50万円を日本赤十字社に寄託しました。

義援金は真誠会が運営する各施設に寄せられた募金と、「がんばろう東北」Tシャツの売上金の一部などです。Tシャツは東日本大震災の被災地を支援しようと、小田貞理事長直筆の「がんばろう東北」と書かれたものです。

小田理事長から「これから本格化する被災地の復興に少しでも役立てていただきたい」と、日本赤十字社鳥取県支部米子市地区事務局がある米子市社会福祉協議会の後藤巖会長に義援金が手渡され、後藤会長は「多くの皆さんの善意を被災地に届けます」と感謝していました。

また、この日は「新老人の会」鳥取支部の入江伸二世話人代表が同様に、義援金45万1569円を寄託しました。

義援金は5月20日に米子コンベンションセンターで開かれた「日野原重明先生百歳記念講演会」で来場者から寄せられた募金と、講演会会場で行われた物産展の売り上げの一部です。

皆様のご協力にお礼申し上げます。



後藤会長 小田理事長 入江代表 (左) (中央) (右)

## 小田理事長講演会活動報告

平成24年8月30日(木)、大山町保健福祉センターなわにて、「脳と心の健康老人をめざして」と題し小田理事長が講師を務め講演会が開催されました。

大山町役場では町民の方に健診を推進しており、真誠会セントラルクリニックでも健診を受けられるようになっていきます。

最近の脳ドックは脳動脈瘤や、脳梗塞から認知症まで幅広く検査が受けられます。

脳ドックを受けられた方で、健康であると思っておられても、動脈瘤(どうみゃくりゅう)や、無症候性脳梗塞が多く発見されています。また、動脈瘤が見つかった方のうち、1年に1人の割合で動脈瘤が破裂する危険もあるので、定期的な健診の継続を行なっていただきたいと思います。

現在、日本では食の欧米化の影響もあり、メタボリック症候群にかかる人が増えてきています。

メタボリック症候群の方々は、脳梗塞(のうこうそく)になりやすいというデータも出ています。

40歳以上の方、家族に病歴のある方、高血圧の方、肥満の方などは、脳ドックを受けることをお勧めしています。

病気を早期発見し治療することが大切ですが、日頃から生活習慣の改善を行なっていただきたいと思います。

講演の最後に、健康長寿で有名な日野原重明先生(聖路加国際病院 理事長)(医療法人真誠会 名誉理事長)について、長生きの秘訣についての質問もありました。小田理事長も日野原先生の食生活を参考に食事制限をしている話で会場では真剣にメモを取られている方が多くありました。会場は、町民の方で満席になりました。



会場は超満員!!

# 白砂青松そだて隊、汗だくで除草作業

とってもスッキリ  
しましたよ!

「白砂青松アダプトプログラム事業」は、鳥取県が平成 23 年の豪雪で被害を受けた国道 431 号沿線の県有松林約 25ha を 25 分割し、企業や自治会等から弓ヶ浜松林の里親「名称：弓ヶ浜・白砂青松そだて隊」を募集し、松林の継続的な保全活動に取り組むものです。



作業前



作業後

ホスピタウン（医療法人真誠会、社会福祉法人真誠会、辻田耳鼻咽喉科、家原歯科）として、同事業の主旨に賛同し、平成 24 年 6 月 24 日（日）に約 100 名のボランティアスタッフが参加し、草刈りや清掃等松林の保全活動を実施しました。

なお、本ボランティア活動は平成 24 年 11 月にも実施する予定であり、以降 3 年以上に亘って同じ区域で継続的に活動してまいります。



弓ヶ浜・白砂青松そだて隊（ホスピタウン）  
2012.6.24

約 100 人で除草作業を行いました

## 第23回

## 全国介護老人保健施設大会美ら沖縄に参加して

看護・介護統括部長 三ツ木 育子 介護老人保健施設ゆうとぴあ 介護主任 岡田 修治 介護福祉士 角 光一郎 支援相談員 岡仲 智之

紺碧の空と海の沖縄で、第 23 回 全国介護老人保健施設大会が開催され、部長と当施設から 3 名の職員が参加しました。

全国介護老人保健施設大会では、医師、看護師、相談員、介護職員、セラピスト等のさまざまな専門職が約 4,000 名集い、全国から日々の取り組みを研究発表というかたちで披露しました。

ゆうとぴあは、第 21 回大会で発表した研究が、演題発表総数 1,445 演題の中から優秀奨励賞に選ばれ表彰を受けました。また今回は、「100 歳を超えても健康で生活できる秘訣は何か」をテーマに角が、「安心して在宅生活が再開できるために老健パスを用いた取り組み」を岡仲がそれぞれ調査研究を発表し、独創的な研究で貴重なデータだと反響がありました。

大会を通じて感じたことは、全国の他施設と当施設を比較した時に、鳥取県は人口が一番少なく、田舎だからと言われても決して取り組みは遅れをとっていない、むしろ県西部地区は研究が盛んに行われ恵まれた環境にあるということです。

ある座長が、「北欧を中心に、世界の福祉の制度は充実していますが、日本人のきめ細やかな“おもてなし”の精神を基盤としたケアの質は日本が世界一だ。」と言われていました。

基調講演や全国の取り組みを聴講し、たくさんの学びの中から、これからの「老健の在り方」を考える良い機会となりました。私たちは「自分だったらこういう風にして欲しいだろうな」という思いとともに、さらなる研鑽を積み重ね、「根拠をしっかりと持った技術」をプラスしていけるように、これからも日々励みたいと感じました。



大会の行われた沖縄会場  
精一杯発表をし、良い評価をいただきました

第 21 回大会では  
優秀奨励賞をいただき、  
表彰されました

